

二本松実業高等学校学生との座談会

主催：(一社)福島県建設業協会

福島県建設業協会では、建設関係学科に進学した学生を対象に、将来の建設業界への就職に備え、進路希望者の不安解消や理解の増進を図ることにより、雇用のミスマッチの解消や建設業への進路選択者を増加させることを目的に、学生との座談会を開催いたしました。

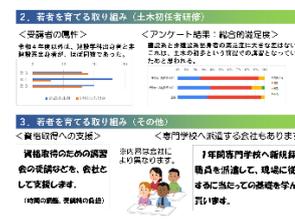
二本松実業高等学校学生との座談会においては、座学として建設業協会の人材育成の取組みや地元建設企業の技術者の仕事内容、社会貢献等の取組を学び、座談会として学生が抱える建設業への不安や疑問の解消、技術者が今感じている仕事のやりがいなどについて、意見交換を行いました。

- <日 時> 令和6年2月28日(水) 9:50~11:40
<場 所> 二本松実業高等学校 2階会議室(二本松市榎戸1丁目58の2)
<対象学年> 都市システム科 2年生 19名
<コーディネーター> 森合 竜司教諭、福田 俊彦教諭、佐藤 秀生教諭
福島県土木部建設産業室1名、(一社)福島県建設業協会3名
<参加企業> 地元建設企業2社 石橋建設工業(株)2名、菅野建設工業(株)1名

座学1「人材育成の取組みなど」

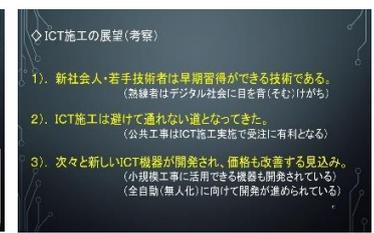
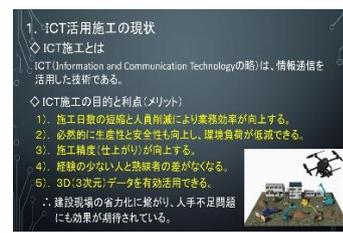
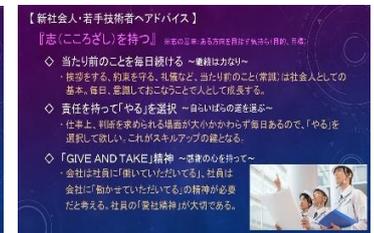
講 師：(一社)福島県建設業協会 事務局 齋藤 淳 氏

<人材育成の取組みについて説明>



座学2「建設業への就職に向けて」

- ①新社会人・若手技術者に望むこと…菅野建設工業(株) 土木本部 土木部長 石川 清徳さん
石橋建設工業(株) 土木部 工事次長 佐藤 国浩さん
②ICT活用の現状と課題、今後の展望…菅野建設工業(株) 土木本部 土木部長 石川 清徳さん
③地域建設業における社会貢献等の取組み…石橋建設工業(株) 土木部 工事次長 佐藤 国浩さん





2. 新社会人・若手技術者に望むこと

3つの気がとても大切

- 「やる気」…「これをやってみよう」「こうなりたい」そんな思いを持ってやってみようという気持ちです。
- 「元気」…「おはよう」と元気よくあいさつをする。寝ぐでもお昼まで起きてお目覚めを共有して、出勤してくる。自然な生活を無理に生きていく健康です。好きなことをやり続けること。ときにはつらいことも経験してやり続ける力です。

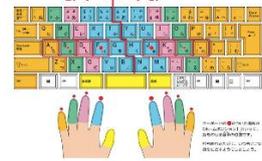
3. 社会人になるまでの準備

- 専門的な知識を得る
 - 資格を取る（2級土木施工管理技士1次試験）
 - 一般的な勉強をする（英語、数学など）
 - **パソコンの知識とスキルが必要**
- Excel
ブラインドタッチ
Word
CAD



3. 社会人になるまでの準備

ブラインドタッチ



座談会

3班に分かれて、事前に行ったアンケート結果を基に、学生が建設業に対するの疑問や考えを聞きました。主な質問は以下のとおりです。

Q1 休暇は取得しにくいですか。

A1 申請を出せば取得可能。休暇希望日直前に申請を出しても大丈夫。有給休暇を取得することに後ろめたさを感じた事はない。むしろ、会社側から有給を取ってくださいと言われる。休暇は取りやすい。

Q2 こんな上司や同僚と出会えてよかったこと。

A2 物を造る仕事に携わって、会社の同僚や協力会社の皆さんと出会い、一緒になって1つの物を造ることにやりがいを感じている。協力し合って1つの物を造る時に、どんなことでも良いので役に立てる人間になってほしい。そのことが会社の一員になった証となる。

Q3 これから10年間の建設業界の「景気」と「給料」はどうなるか。

A3 建設業界は高齢化が進んでいるため、今後退職する方が多くなります。このことは、建設業への入職を考える若い皆さんにとって良い条件だと思う。コロナウイルスの影響が少なくなり、景気が良くなることで仕事量が確保されているため、安心して建設業への入職を検討してください。

<座談会の様子>



<代表生徒感想>

- ・会社の行事やイベントが多く、地域住民や社員との関わりをととても大事にしている会社だと感じた。
- ・資格取得支援や資格手当などがあり、入職後もスキルアップできる環境や支援制度があることに魅力を感じた。

<佐藤学科長講評>

現在の3年生は、不安解消や未来への展望を実感して建設系への就職・進学率が約70%となった。座談会是一定の成果を上げていると実感している。2年生は進路選択を目前として、大変よい機会となった。生徒には、地域の街づくりや災害復旧のエースとして建設業へ入職し、活躍することを期待している。

